

# 令和8年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	国語	学年	3	教科書	国語表現(大修館)
科目	国語表現	クラス	αコース	副教材	国語表現基礎練習ノート(大修館) パーフェクト演習(尚文出版)
		単位数	3	担当者	鈴木 果菜子

学習目標	<b>国語表現の授業を通して次のことができるようにする。</b> ・国語で適切かつ効果的に表現する。 ・伝え合う力を高める。 ・思考力や想像力を伸ばす。 ・言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る姿勢を身に付ける。				
学習方法	・自分の意見を的確に相手に伝えられる能力を養う。 ・他者の意見を聞き、尊重する態度を身に付けられるように、グループ学習を取り入れる。 ・学習した表現を理解し、自ら使えるように、書く・話す場面を設定する。 ・授業内でスピーチ発表やレポート作成を取り入れ、表現力を養う。 ・板書以外の要点を自らメモする。				
学習評価	当該科目の評価の趣旨				
	評価の観点				
	a 知識及び技能	言語文化及び言葉の特徴やきまりなどについての理解を深め、知識を身に付けている。			
	b 思考・判断・表現	目的や場に応じて効果的に話したり的確に聞き取ったりして、自分の考えを深め、発展させている。必要な情報を用い、相手や目的、課題に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えを深め、発展させている。			
c 主体的に学習に取り組む態度	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、国語を尊重してその向上を図ろうとしている。				
定期考査は行わず、授業内の活動や小テスト、提出物などで上記a, b, cの観点それぞれについて適切に配分しています。					

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	【第1部】表現力を培う 1 言葉と出会う ・言葉と表記 ・整った文を書く ・相手に応じた言葉遣い ・わかりやすい文を書く ・文のつなぎ方 ・実践トレーニング①	・言葉と表記、係り受け、文末表現の統一、接続表現の使い方などを意識し、より適切な表現になるように吟味する。 ・原稿用紙の使い方理解する。	○			2年次の既習事項を踏まえ、自分の思いや考えを多彩に表現するために必要な語句の量を増し、言葉遊びの中で使うこととおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。 2年次の既習事項を踏まえ、「書くこと」において、目的や意図に応じて適切な題材を決め、語句や表現の組み合わせなどを工夫して、伝えたいことを明確にしている。 さまざまな言葉遊びに興味をもち、意欲的に活動に取り組もうとしている。	・観察 ・ワークシート ・レポート ・小テスト
前期末	【第1部】表現を培う 4 自己PRと面接 ・自分を見つめて ・効果的な自己PR ・将来の自分を考える ・志望理由を書こう ・面接にチャレンジ	・自分の長を端的に表現し、印象に残る自己PRの原稿を書く。 ・就きたい職業に就くために必要なことを、適切な方法で調べる。 ・調べたことをふまえて、「将来の自分」について文章にまとめる。 ・適切な言葉遣いで書類を書く。	○			a 言葉を用いて、自己と他者の相互理解に努め、3項目以上のライフチャートづくりや自分の長所の理解につなげている。 b 発表内容がよく伝わるように、自己PRの具体例の配置を考えた構成メモを作り、声量や速さを意識しながら発表している。 c 自分の将来を考えたり、職業について調べてまとめたりしようとする前向きに学習に取り組もうとしている。	・観察 ・ワークシート ・レポート ・小論文 ・小テスト
後期中間	【第1部】表現を培う 6 会話・議論・発表 ・相手や場面に合った会話 ・建設的な議論の進め方 ・スピーチをしよう ・プレゼンテーションの工夫	・場面にふさわしい言葉遣いを考える。 ・適切な言葉遣いでロールプレイをし、話すことの順序を考えて、わかりやすいショートスピーチやプレゼンをする。 ・聞き手の興味を引くような工夫をして、わかりやすく発表する。	○			a 「話すこと・聞くこと」において、目的や場に応じて、実社会の問題や自分に関わる事柄の中から話題を決め、他者との多様な交流を想定しながら情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討している。 b 「話すこと・聞くこと」において、相手の反応や場の状況に応じて言葉を選び、相手の同意や共感が得られるように表現を工夫している。 c 相手や場面に合った会話をするに興味をもち、意欲的に活動に取り組もうとしている。	・観察 ・ワークシート ・レポート ・模擬面接 ・小テスト
学年末	【第2部】表現を楽しむ ・みんなで作ろう国語辞典 ・エッセイを書こう ・演説合戦にチャレンジ	・辞書に親しみを持ち、言葉を意識し、語彙を広げ、言語感覚を豊かにする。 ・読者を意識し、ほかのエッセイを参考にしながら、構成、文体、表現などを意識してエッセイを書く。 ・説得力のある主張をするために、必要な情報を集めたり、構成や説明資料を工夫したりする。	○			a 自分の思いや考えを多彩に表現するために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うこととおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。 b 「書くこと」において、読み手を楽しませるよう、さまざまなエッセイを参考にしながら適切な題材を決め、文章の構成や展開を工夫している。 c 「話すこと・聞くこと」において、自分の考えと比較しながら聞き、聞き取った情報を吟味して自分の考えを広げたり深めたりしている。 言葉の定義を書いたり国語辞典を作ったり、エッセイを書いたり、演説合戦の活動に興味をもち、意欲的に取り組もうとしている。	・観察 ・ワークシート ・発表 ・小テスト

## 評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期中間	知識及び技能	35	0	35
	思考・判断・表現	35	0	35
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
前期末	知識及び技能	35	0	35
	思考・判断・表現	35	0	35
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期中間	知識及び技能	35	0	35
	思考・判断・表現	35	0	35
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期末	知識及び技能	35	0	35
	思考・判断・表現	35	0	35
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30

# 令和8年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	地理歴史	学年	3	教科書	詳説世界史 (山川出版社)
科目	世界史探究	コース	αコース	副教材	グローバルワイド最新世界史図表 (第一学習社)
		単位数	2	担当者	吉田 大樹

学習目標	(1)現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につける。 (2)地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察する。また、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力や、考察したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 (3)地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会を実現するための課題を主体的に解決しようとする態度を養う。日本や他国の文化を尊重することの大切さを自覚し、深める。				
学習方法	(1)単元にテーマを設定し、課題探究的な学習をベースとする。副教材と小テストで日常的に知識理解を図る。 (2)単元の学習に、学習内容が可視化できる教具を活用したり、ICT機器を活用したりしながら学習する。 (3)主体的かつ対話的で深い学びを促すために、ペアワークやグループワークを随時用いて学習する。 (4)現代における社会的事象の「見方・考え方」と、歴史的な「見方・考え方」をつなげられるように学習する。 (5)日本との関連や、現代社会におけるグローバルな課題と、世界の歴史の推移との関わりを学習する。				
学習評価	評価の観点	当該科目の評価の趣旨			
	a 知識及び技能	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。			
	b 思考力・判断力・表現力	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。			
	c 主体的に学習に取り組む態度	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。			
	定期考査については、上記a, b, c の観点それぞれについて学習内容に応じて適切に配分しています。				

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	第9章 大交易・大交流の時代	1 アジア・文物世界の興隆 2 ヨーロッパの海洋進出と アメリカ大陸の発見	○	○	○	a: 近世世界の社会や文化の特色についての基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。また、諸資料を収集し、有用な情報についてまとめ、活用している。 b: 近世世界の社会や文化の特色から課題を見だし、その過程や結果を適切に表現している。 c: 近世世界の社会や文化の特色に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求している。	①授業態度・小テストの実施 ②課題・レポート等の提出 ③定期考査と解き直し(復習)
	第10章 アジア諸帝国の繁栄	1 オスマン帝国とサファヴィー朝 2 ムガル帝国の興隆 3 清代の中国と隣接諸地域	○	○	○		
	第11章 近世ヨーロッパ世界の動向	1 ルネサンス 2 宗教改革 3 主権国家体制の成立 4 蘭・英・仏の台頭 5 北欧・東欧の動向 6 科学革命と啓蒙思想	○	○	○		
前期末	第12章 産業革命と環大西洋革命	1 産業革命 2 アメリカ合衆国の独立と発展 3 フランス革命とナポレオンの支配 4 中南米諸国の独立	○	○	○	a: 近代世界の形成と社会や文化の特色についての基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。また、諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表にまとめたりしている。 b: 近代世界の形成と社会や文化の特色から課題を見だし、様々な事柄と関連付けて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 c: 近代世界の形成と社会や文化の特色に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求している。	①授業態度・小テストの実施 ②課題・レポート等の提出 ③定期考査と解き直し(復習)
	第13章 イギリスの優位と欧米 国民国家の形成	1 ウェルシュとスコットランドの統合 2 列強体制の動向とヨーロッパの再編成 3 アメリカ合衆国の発展 4 19世紀欧米文化の展開と市民文化の繁栄	○	○	○		
	第14章 アジア諸地域の動向	1 西アジア地域の姿容 2 南アジア・東南アジアの植民地化 3 東アジアの激動	○	○	○		

後期中間	第15章 帝国主義とアジアの民族運動	1 第2次産業革命と帝国主義 2 列強の世界分割と列強体制の二分化 3 アジア諸地域の変革と民族運動	○	○	○	a: 19世紀末から第二次世界大戦にかけての世界の歴史の特色についての基本的な事柄を、国際関係と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。また、諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表にまとめたりしている。 b: 19世紀末から第二次世界大戦にかけての世界の歴史の特色について、課題を見だし、国際関係と関連付けて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 c: 19世紀末から第二次世界大戦にかけての世界の歴史の特色に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求している。	①授業態度・小テストの実施 ②課題・レポート等の提出 ③定期考査と解き直し(復習)
	第16章 第一次世界大戦と世界の変容	1 第一次世界大戦とロシア革命 2 ヴェルサイユ体制下の欧米諸国 3 アジア・アフリカ地域の民族運動	○	○	○		
	第17章 第二次世界大戦と新しい国際秩序の形成	1 世界恐慌とヴェルサイユ体制の崩壊 2 第二次世界大戦 3 新しい国際秩序の形成	○	○	○		
後期末	第18章 冷戦と第三世界の台頭	1 冷戦の展開 2 第三世界の台頭とキューバ危機 3 冷戦体制の動揺	○	○	○	a: 戦後の世界の歴史の特色についての基本的な事柄を、現在の諸課題と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。また、諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表にまとめたりしている。 b: 戦後の世界の歴史の特色について、課題を見だし、現在の諸課題と関連付けて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 c: 戦後の世界の歴史の特色に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求している。	①授業態度・小テストの実施 ②課題・レポート等の提出 ③定期考査と解き直し(復習)
	第19章 冷戦の終結と今日の世界	1 産業構造の変容 2 冷戦の終結 3 今日の世界 4 現代文明の諸相	○	○	○		
	地球世界の課題の探究		○	○	○		

## 評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期中間	知識及び技能	40	30	10
	思考力・判断力・表現力	30	15	15
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
前期末	知識及び技能	40	30	10
	思考力・判断力・表現力	30	15	15
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期中間	知識及び技能	40	30	10
	思考力・判断力・表現力	30	15	15
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期末	知識及び技能	40	30	10
	思考力・判断力・表現力	30	15	15
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30

# 令和8年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	公民	学年	3	教科書	政治・経済(東京書籍)
科目	政治経済	クラス	αコース	副教材	要点マスター政治・経済 整理と演習(東京書籍)
		単位数	3	担当者	竹谷 涼太

学習目標	(1) 社会のグローバル化の進展に伴い、多様に変容した政治・経済・社会のしくみに関する基本的な知識と技能を身に付ける。 (2) 現代社会における世界的な枠組みや国内のしくみに関する知識や多くの情報を的確に組み合せ、現代社会を生き抜く思考力・判断力・表現力を伸長する。 (3) 現代社会における自律した社会人として、自ら課題を発見し解決に導く主体的かつ協働的な人間性を養う。
学習方法	(1) 課題探究型学習をベースとする(新学習指導要領を意識する)。 (2) 単元の基軸となる問いを設定し、生徒自身による「問いを表現する」機会も設定する。 (3) 「アクティブ・ラーニング」(主体的・対話的で深い学び)の視点を導入する。 (4) 社会的時事における「見方・考え方」や歴史的な「見方・考え方」を働かせる。 (5) 「政治・経済」を意識した歴史学習を展開する。
学習評価	<p style="text-align: center;">当該科目の評価の趣旨</p> <p>a 知識・理解 現代の社会的時事と人間としての在り方生き方にかかわる基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。</p> <p>b 思考・判断・表現 現代の社会と人間にかかわる事柄から課題を見だし、社会的時事の本質や人間の存在及び価値などについて広い視野に立って多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。</p> <p>c 主体的に学習に取り組む態度 現代の社会と人間にかかわる事柄に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、平和で民主的なりよい社会の実現に向けて参画、協力する態度を身に付け人間としての在り方生き方についての自覚を深めようとする。</p> <p>定期考査については、上記a.b.cの観点それぞれについて学習内容に応じて適切に配分しています。</p>

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	第1章 現代の政治 【1節】 民主政治の基本原則	1 民主政治の成立 2 基本的人権の確立 3 現代の民主政治 4 世界のおもな政治体制	○	○	○	a: 現代の国内政治及び国際政治に関して、基本的な概念や理論を理解し、その知識を身に付けている。 b: 現代の国内政治及び国際政治から課題を見だし、公正な判断の下、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。 c: 現代の国内政治及び国際政治に対する関心を高め、民主政治の本質や現代政治の特質、また、国際政治の特質や国際紛争の諸要因を意欲的に追求し、望ましい政治の在り方や主権者としての在り方、また、日本の役割を考察しようとしている。	①授業への関心・意欲(グループワーク等での発言・発表含む) ②課題提出(授業プリント、ワークシート等の取組状況) ③定期考査(ほか小テスト等含む)
	第1章 現代の政治 【2節】 日本国憲法の基本原則	1 日本国憲法の制定と基本原則 2 基本的人権の保障 3 平和主義	○	○	○		
	第1章 現代の政治 【3節】 日本の政治機構	1 国会と立法 2 内閣と行政 3 裁判と司法 4 地方自治	○	○	○		
前期末	第1章 現代の政治 【4節】 現代政治の特質と課題	1 戦後政治と政党 2 選挙と政治意識 3 世論と政治参加	○	○	○	a: 現代の国内政治及び国際政治に関して、基本的な概念や理論を理解し、その知識を身に付けている。 b: 現代の国内政治及び国際政治から課題を見だし、公正な判断の下、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。 c: 現代の国内政治及び国際政治に対する関心を高め、民主政治の本質や現代政治の特質、また、国際政治の特質や国際紛争の諸要因を意欲的に追求し、望ましい政治の在り方や主権者としての在り方、また、日本の役割を考察しようとしている。	①授業への関心・意欲(グループワーク等での発言・発表含む) ②課題提出(授業プリント、ワークシート等の取組状況) ③定期考査(ほか小テスト等含む)
	第1章 現代の政治 【5節】 現代の国際政治	1 国際政治の特質 2 国際社会と国際法 3 国際連合の役割と課題 4 戦後国際関係の展開と日本 5 国際政治の課題 6 地球環境と資源・エネルギー問題 7 国際社会における日本の役割	○	○	○		
	第2章 現代の経済 【1節】 現代の資本主義経済	1 資本主義体制の成立 2 資本主義経済の発展と変容	○	○	○		

後期中間	第2章 現代の経済 【2節】 現代経済のしくみ	1 経済主体と経済の循環 2 生産のしくみと企業 3 市場経済の機能と限界 4 国民所得と経済成長 5 金融のしくみと機能 6 財政のしくみと機能	○	○	○	a: 現代の国内経済及び国際経済に関して、基本的な概念や理論を理解し、その知識を身に付けている。 b: 現代の国内経済及び国際経済から課題を見だし、公正な判断の下、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。 c: 現代の国内経済及び国際経済に対する関心を高め、市場経済の本質や産業構造の特質、また、世界貿易の特質や諸問題の要因を意欲的に追求し、望ましい経済の在り方や日本の役割を考察しようとしている。	①授業への関心・意欲(グループワーク等での発言・発表含む) ②課題提出(授業プリント、ワークシート等の取組状況) ③定期考査(ほか小テスト等含む)
	第2章 現代の経済 【3節】 日本経済の発展と産業構造の変化	1 経済再建から高度成長へ 2 オイルショック後の日本経済 3 日本経済の現状	○	○	○		
	第2章 現代の経済 【4節】 福祉社会と日本経済の課題	1 公害と環境保全 2 高齢者問題 3 農業・食料問題 4 中小企業の現状と課題 5 雇用と労働問題 6 社会保障と福祉	○	○	○		
後期末	第2章 現代の経済 【5節】 国民経済と国際経済	1 貿易と国際収支 2 国際経済体制の展開 3 発展途上の経済 4 地域主義の動向 5 グローバル化する世界経済	○	○	○	a: 現代社会の諸課題に関して、基本的な概念や理論を理解し、その知識を身に付けている。 b: 現代社会の諸課題から原因や背景を捉え、公正な判断の下、その課題を克服するための具体的な方法を適切に表現している。 c: 現代社会の諸課題を見つめ、よりよい未来社会を実現するための改善策を構想しようとしている。	①授業への関心・意欲(グループワーク等での発言・発表含む) ②課題提出(授業プリント、ワークシート等の取組状況) ③定期考査(ほか小テスト等含む)
	第3章 現代社会の諸課題 【1節】日本社会の諸課題 【2節】国際社会の諸課題	1 少子高齢社会において社会保障はどうあるべきか？ 2 地域社会を活性化するにはどうすればよいか？ 3 どうよようにして若者の労働環境を改善するか？ 4 中小企業の活路はどこに？ 5 どうする？日本の「食」と「農」 1 地球環境にやさしいエネルギーをどう確保するか？ 2 経済援助は貧困を削減できるか？ 3 パレスチナ問題とは何か？ 4 地球社会で日本がなすべきことは何か？	○	○	○		

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期中間	知識・理解	40	30	10
	思考・判断・表現	30	15	15
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
前期末	知識・理解	40	30	10
	思考・判断・表現	30	15	15
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期中間	知識・理解	40	30	10
	思考・判断・表現	30	15	15
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期末	知識・理解	40	30	10
	思考・判断・表現	30	15	15
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30

# 令和8年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	数学	学年	3	教科書	新 高校の数学Ⅱ(数研出版)
科目	数学Ⅱ	クラス	αコース	副教材	ポイントノート数学Ⅱ(数研出版) テスト式就職数学「数学Ⅰ・A」
		単位数	3	担当者	菊池 元夢

学習目標	① 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、それらを世の中の事象に活用し数学的に考察することができる。 ② 数学的な見方や考え方のよさを認識し、仲間と協力してよりよく問題を解決することができる。 ③ 進路実現に向けて既習内容を復習するとともに、社会人として身に付けておくべき基礎的な内容が定着する。
------	--

学習方法	① 授業において自ら考え、また、周りの生徒と共同で考えるグループワークやペアワークを行う。 ② 課題ノートを作成し、授業内容についての課題に取り組む。また、週末や長期休業等の課題に取り組む。 ③ 授業終了時に、本時の授業内容の復習及び課題内容の理解度を測るための確認テストを行う。
------	--

学習評価	評価の観点	当該科目の評価の趣旨		
	a 知識及び技能	数学における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。		
	b 思考力・判断力・表現力	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることを通して、数学的な思考力・判断力・表現力を身に付けている。		
	c 主体的に学習に取り組む態度	数学の論理や体系に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。		
定期考査については、上記a, b の観点それぞれについて学習内容に応じて適切に配分しています。				

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	数・式の計算	数・式の計算	○	○	○	a: 数学における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、それを演算に用いたり、解を求めることができる。事象の特徴を捉えて適切に公式を用いることができる。また、数学的に表現・処理したり、推論するなど、よりよく問題を解決することができる。 b: 事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えることで、式の特徴や関係を考察することができる。 c: 数学の論理や体系に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づき、具体的な事象の考察に活用しようとする。	①授業態度 ・発言 ・取り組み ・ノート作成 ②課題提出 ・提出状況 ・取り組み ③確認テスト ④定期考査
	因数分解	因数分解	○	○	○		
	約数と倍数	約数と倍数	○	○	○		
	平方根の計算	平方根の計算	○	○	○		
	式の値・比例式	式の値・比例式	○	○	○		
	1次方程式	1次方程式	○	○	○		
	連立方程式	連立方程式	○	○	○		
	2次方程式	2次方程式	○	○	○		
	不等式	不等式	○	○	○		
数と量・割合	数と量・割合	○	○	○			
前期末	速さ	速さ	○	○	○	a: 数学における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、それを演算に用いたり、解を求めることができる。事象の特徴を捉えて適切に公式を用いることができる。また、数学的に表現・処理したり、推論するなど、よりよく問題を解決することができる。 b: 事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えることで、式の特徴や関係を考察することができる。 c: 数学の論理や体系に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づき、具体的な事象の考察に活用しようとする。	①授業態度 ②課題提出 ③確認テスト ④定期考査
	規則性	規則性	○	○	○		
	1次関数	1次関数	○	○	○		
	2次関数	2次関数	○	○	○		
	立体の体積と表面積	立体の体積と表面積	○	○	○		
	場合の数	場合の数	○	○	○		
	確率	確率	○	○	○		
	三角比	三角比	○	○	○		
	図形と方程式	図形と方程式	○	○	○		

後期中間	集合と論証	命題の真偽	○	○	○	a: 数学における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、それを演算に用いたり、解を求めることができる。事象の特徴を捉えて適切に公式を用いることができる。また、数学的に表現・処理したり、推論するなど、よりよく問題を解決することができる。 b: 事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えることで、式の特徴や関係を考察することができる。 c: 数学の論理や体系に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づき、具体的な事象の考察に活用しようとする。	①授業態度 ②課題提出 ③確認テスト ④定期考査
	集合と論証	必要条件、十分条件	○	○	○		
	平方根の計算	平方根の計算	○	○	○		
	数列	数列	○	○	○		
	1次方程式	1次方程式	○	○	○		
	連立方程式	連立方程式	○	○	○		
後期末	規則性	規則性	○	○	○	a: 数学における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、それを演算に用いたり、解を求めることができる。事象の特徴を捉えて適切に公式を用いることができる。また、数学的に表現・処理したり、推論するなど、よりよく問題を解決することができる。 b: 事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えることで、式の特徴や関係を考察することができる。 c: 数学の論理や体系に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づき、具体的な事象の考察に活用しようとする。	①授業態度 ②課題提出 ③確認テスト ④定期考査
	1次関数	1次関数	○	○	○		
	2次関数	2次関数	○	○	○		
	平面図形	平面図形	○	○	○		
	図形の面積	図形の面積	○	○	○		
	場合の数	場合の数	○	○	○		
	確率	確率	○	○	○		
微分法と積分法	微分法と積分法	○	○	○			

## 評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期中間	知識及び技能	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
前期末	知識及び技能	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期中間	知識及び技能	35	25	15
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期末	知識及び技能	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30

# 令和8年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	理科	学年	3	教科書	改訂版 生物基礎 (数研出版)
科目	生物基礎	クラス	αコース	副教材	ネオパルノート 生物基礎 (第一学習社)
		単位数	2	担当者	堤 友理江

**学習目標**  
 生物基礎の学習を通して、次のことができるようになる。  
 ○身の周りの生命現象に興味・関心をもつことができる。  
 ○グループ学習を通し、自ら調べるとともに他と協力しながら学習内容を深めることができる。  
 ○実験・観察を通し、探求の過程を身に付けることができる。

**学習方法**  
 ○授業において自ら考え、また、周りの生徒と協働して考える活動を行う。  
 ○長期休業等でレポートを提出し、時事に関心を寄せるとともに、問題解決能力を養う。  
 ○課題ノートや授業ノート、レポートの作成に工夫を加え、学習内容を整理する。  
 ○実験・観察の目的に沿った手法を他と協議しながら実施する。

学習評価	評価の観点		評価の趣旨		
	a	知識及び技能	生物や生命現象について、それらの基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を身に付けている。		
	b	思考力・判断力・表現力	生物や生命現象に関する問題を取り扱い、自然を科学的にとらえられる。		
	c	主体的に学習に取り組む態度	生物や生命現象を通して自然に対する探求心を持ち、基本的な概念や原理・法則を理解する意欲とともに、科学的な自然観や生物学的に探求する能力と態度を身に付けている。		
定期考査については、上記 a, b の観点それぞれについて、学習内容に応じて適切に配分しています。					

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	第1章 生物の特徴	1生物の多様性と共通性 2エネルギーと代謝 3呼吸と光合成	○	○	○	a:顕微鏡の各部の名称と役割を理解している。また良好な観察のために顕微鏡観察ができる。 b:DNA、ATP、細胞構造などが生物にとって重要なはたらきをもつことを理解し、説明できる。 c:さまざまな生物や生命現象に対して興味・関心をもっている。	①授業態度 ②演習プリント・レポート ③課題 ④小テスト ⑤定期考査
前期末	第2章 遺伝子とのはたらき	1遺伝情報とDNA 2遺伝情報の複製と分配 3遺伝情報と発現	○	○	○	aタンパク質の構造を理解している。また、タンパク質合成の過程を理解している。 bDNAのどのような特徴からそれが遺伝子の本体であると判断されるようになったかを科学的に考察し、表現することができる。 cさまざまな生物や生命現象に対して興味・関心をもっている。	①授業態度 ②演習プリント・レポート ③課題 ④小テスト ⑤定期考査

後期中間	第3章 生物の体内環境とその維持	1体内での情報伝達と調節 2体内環境の維持のしくみ 3免疫のはたらき	○	○	○	a:免疫の機構とそれにはたらく細胞の役割を正確に理解している。また解剖手順を正確にこなし、輸尿管、腎動脈、腎静脈、腎う等腎臓の構造を確認できる。 b:体内環境を維持する複雑なしくみを理解し、それを説明することができる。 c:さまざまな生物や生命現象に対して興味・関心をもっている。	①授業態度 ②演習プリント・レポート ③課題 ④小テスト ⑤定期考査
後期末	第4章 植生の多様性とその保全	1植生と遷移 2植生の分布とバイオーム 3生態系と生物の多様性 4生態系のバランスと保全	○	○	○	a:多様な植生について優占種や相観から分類し、植生遷移が起こるしくみを理解できる。 b:無機的環境と生物間の複雑な関係によって生態系のバランスが保たれている事を考え、人間の活動がそれに大きな影響を与えつつあることを考える事ができる。 c:さまざまな生物や生命現象に対して興味・関心をもっている。	①授業態度 ②演習プリント・レポート ③課題 ④小テスト ⑤定期考査

### 評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期中間	知識及び理解	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
前期末	知識及び理解	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期中間	知識及び理解	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期末	知識及び理解	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30

# 令和8年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	保健体育	学年	3	教科書	現代高等保健体育(大修館)
科目	体育	クラス	αコース	副教材	
		単位数	2	担当者	田中 館 洸・狐崎 垂実

学習目標	<p>○各運動における基本的な技術やルール、特性を理解し、安定して発揮し、状況に応じて使い分けず</p> <p>○運動の課題を発見し、解決に向けて練習方法や戦術を工夫し、考えたことを他者に伝える。</p> <p>○積極的に運動に取り組み、継続し、協力・公正・責任といった態度を身に着ける。</p>	
学習方法	<p>○運動の合理的、計画的な実践を通して、知識、技能を高める。</p> <p>○ペアやチームでの活動を通して、仲間と協力したり交流したりする。</p> <p>○教科書や副教材などから、競技のルールや健康、安全面についての理解を深める。</p>	
学習評価	評価の観点	当該科目の評価の趣旨
	a 知識及び技能	運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けている。
	b 思考力・判断力・表現力	生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動の取り組み方や健康の保持及び体力を高めるための運動の計画を工夫している。また、個人生活及び社会生活における健康・安全について、課題の解決を目指して考え、判断し、それらを表している。
	c 主体的に学習に取り組む態度	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に主体的に取り組もうとする。また、個人生活及び社会生活における健康・安全について関心をもち、意欲的に学習に取り組もうとする。

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	A 体づくり運動	体ほぐしの運動 実生活に生かす運動の計画 集団行動	○	○	○	a 運動を継続する意義、体力の構成要素、運動の原則を理解している。 b 自己や仲間の考えたことを他者に伝えられる。 c 体づくり運動に主体的に取り組んでいる。健康・安全を確保しようとする。	観察 学習カード
	C 陸上競技	短距離走 跳躍 投てき	○	○	○	a 体力の高め方、運動観察の方法などを理解し、各種目の技術を身に付けている。 b 課題解決の過程を通し、取り組み方を工夫し、自己や仲間の考えを他者に伝えている。 c 主体的に取り組むルールやマナーと大切にしようとする。自己の責任を果たそうとする。	観察 スキルテスト 学習カード
前期末	E 球技 ア:ゴール型	バスケットボール	○	○	○	a 技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解している。 安定したボール操作と空間を作る動きでゴール前への侵入などから攻防をする。 b 運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 主体的に取り組むフェアなプレイを大切にしようとする。合意形成に貢献しようとする。 一人一人の速いに応じたプレイを大切にしている。互いに助け合おうとしている。	観察 スキルテスト 学習カード
	E 球技 イ:ネット型	バレーボール	○	○	○	a 技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解している。 安定したボール操作と空間を作る動きで空いた場所をめぐる攻防ができる。 b 運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 主体的に取り組むフェアなプレイを大切にしようとする。合意形成に貢献しようとする。 一人一人の速いに応じたプレイを大切にしている。互いに助け合おうとしている。	観察 スキルテスト 学習カード
	H 体育理論 3 豊かなスポーツライフの設計	1 生涯スポーツの見方・考え方 2 ライフスタイルに応じたスポーツ	○	○	○	a スポーツは多様な楽しみ方があり、欲求などによっても変化することを理解している。 ライフスタイルに応じた運動の機会を生み出す工夫の仕方を理解している。 b 比較したり、分類したり、分析したり、まとめたりするなどして、判断し、説明している。 c 学習の内容について、理解したことを言ったり書き出したりしている。	観察 提出物 筆記テスト
後期中間	G ダンス ウ:現代的なリズム	現在のリズムダンス グループ学習	○	○	○	a リズムの特徴を捉え、変化やまとまりを付け、リズムに乗り全身で踊ることができる。 b 合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫している。 c ダンスに主体的に取り組んでいる。	観察 学習カード 発表会
	E 球技 ア:ゴール型	サッカー	○	○	○	a 技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解している。 安定したボール操作と空間を作る動きでゴール前への侵入などから攻防をする。 b 運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 主体的に取り組むフェアなプレイを大切にしようとする。合意形成に貢献しようとする。 一人一人の速いに応じたプレイを大切にしている。互いに助け合おうとしている。	観察 スキルテスト 学習カード
	E 球技 ウ:ベースボール型	ソフトボール	○	○	○	a バット操作と走塁での攻撃、ボール操作と状況に応じた守備によって攻防ができる。 b 運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 主体的に取り組むフェアなプレイを大切にしようとする。合意形成に貢献しようとする。 一人一人の速いに応じたプレイを大切にしている。互いに助け合おうとしている。	観察 提出物 筆記テスト
	H 体育理論 3 豊かなスポーツライフの設計	3 スポーツを推進する取組 4 豊かなスポーツライフの創造	○	○	○	a スポーツの「する、みる、支える、知る」などの関わり方を理解している。 b 比較したり、分類したり、分析したり、まとめたりするなどして、判断し、説明している。 c 学習の内容について、理解したことを言ったり書き出したりしている。	観察 提出物 筆記テスト
後期末	E 球技 イ:ネット型	卓球 バドミントン	○	○	○	a 技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解している。 安定したボール操作と空間を作る動きで空いた場所をめぐる攻防ができる。 b 運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 c 主体的に取り組むフェアなプレイを大切にしようとする。合意形成に貢献しようとする。 一人一人の速いに応じたプレイを大切にしている。互いに助け合おうとしている。	観察 学習カード
	H 体育理論 3 豊かなスポーツライフの設計	振り返り 筆記テスト	○	○	○	a 学習内容を踏まえたスポーツライフの設計ができている。 b スポーツライフの設計の仕方について課題を発見し、解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えること。 c 学習に主体的に取り組んでいる。	観察 提出物 筆記テスト

## 評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期中間	知識・技能	30	0	30
	思考力・判断力・表現力	30	0	30
	主体的に学習に取り組む態度	40	0	40
前期末	知識・技能	30	0	30
	思考力・判断力・表現力	30	0	30
	主体的に学習に取り組む態度	40	0	40
後期中間	知識・技能	30	0	30
	思考力・判断力・表現力	30	0	30
	主体的に学習に取り組む態度	40	0	40
後期末	知識・技能	30	0	30
	思考力・判断力・表現力	30	0	30
	主体的に学習に取り組む態度	40	0	40

## 令和8年度 年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	外国語	学年	3	教科書	Power on English communication II (東京書籍)
科目	英語コミュニケーション II	クラス	αコース	副教材	クラウン チャンクで英単語Basic (三省堂)
		単位数	4	担当者	北村 ちひろ

学習目標	<b>コミュニケーション英語 II の授業を通して次のことができるようにする。</b> ①必要な情報を聞いたり、読んだりして、相手の意図を把握したり、概要、要点を理解することができる。 ②基本的な語句や文を用いて、情報や考え、意見を表現したり、伝えあったりすることができる。 ③グループワーク・ペアワーク等を通して相手のことを思いやった英語発信をすることができる。 ④日々の単語学習やペア・グループでのやりとり、発表などの活動に積極的に取り組むことができる。				
学習方法	①毎時のゴールに向かい見直しをもって学習に取り組む。 ②ゴール達成のために必要な知識・技能や理解・表現力などを養うために4技能を統合して学習する。 ③積極的に英語を用いてペア・グループでの言語活動に取り組む。 ④日々の単語学習やワークブックを用いての授業内容の復習を徹底する。				
学習評価	評価の観点		当該科目の評価の趣旨		
	a 知識・技能	外国語の語彙や表現を理解し、活用できる技能を身に付けている。			
	b 思考・判断・表現	外国語で情報や考え、相手の意図を理解したり、適切に表現したり伝え合ったりしている。			
	c 主体的に学習に取り組む態度	外国語での言語活動を積極的にに行い、コミュニケーションを図ろうとしている。			
定期考査については、上記a. b. の観点それぞれについて学習内容に応じて適切に配分しています。					

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	Lesson 7 Some Secrets about Colors	単語・文法 リスニング・リーディング ライティング・スピーチ	○	○	○	a 所有格・同格の関係詞、前置詞+関係代名詞、whereの非制限用法を用い、英語で表現できる。 b 色の心理的効果について読み、情報や自分の考えを表現できる。 c 色の心理的効果について、情報や意図を把握しようとしている。	①授業内活動 ②小テスト ③定期考査 ④パフォーマンステスト
前期末	Lesson8 Powdered Natto Solves a Global Water Problem	単語・文法 リスニング・リーディング ライティング・スピーチ	○	○	○	a 強調の文、関係代名詞which、to have 過去分詞を用い、情報や自分の考えを伝えることができる。 b 納豆パウダーについて読み、情報や自分の考えを表現できる。 c 納豆パウダーについて、情報や意図を把握しようとしている。	①授業内活動 ②小テスト ③定期考査 ④パフォーマンステスト
後期中間	Lesson9 Flying after Her Dreams	単語・文法 リスニング・リーディング ライティング・スピーチ	○	○	○	a althoughの文、no matter 疑問詞、分詞構文を用い、情報や自分の考えを表現できる。 b ベシー・コールマンの経歴や人物像について読み、情報や自分の考えを表現できる。 c ベシー・コールマンの経歴や人物像について、情報や意図を把握しようとしている。	①授業内活動 ②小テスト ③定期考査 ④パフォーマンステスト
後期末	Lesson10 To Work or Not to Work? Humans and Robots	単語・文法 リスニング・リーディング ライティング・スピーチ	○	○	○	a 過去完了進行形、be to 不定詞、未来完了、insist thatを用い、情報や自分の考えを表現できる。 b 各種ロボットやロボットの労働内容の変化について読み、情報や自分の考えを表現できる。 c 各種ロボットやロボットの労働内容の変化について、情報や意図を把握しようとしている。	①授業内活動 ②小テスト ③定期考査 ④パフォーマンステスト

### 評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期中間	知識・技能	40	25	15
	思考・判断・表現	40	25	15
	主体的に学習に取り組む態度	20	0	20
前期末	知識・技能	40	25	15
	思考・判断・表現	40	25	15
	主体的に学習に取り組む態度	20	0	20
後期中間	知識・技能	40	25	15
	思考・判断・表現	40	25	15
	主体的に学習に取り組む態度	20	0	20
後期末	知識・技能	40	25	15
	思考・判断・表現	40	25	15
	主体的に学習に取り組む態度	20	0	20

# 令和8年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	商業	学年	3	教科書	新簿記(実教出版)
科目	簿記	クラス	αコース	副教材	反復式簿記問題集全商2級
		単位数	2	担当者	石倉 節子

学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>簿記について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</li> <li>取引の記録と財務諸表の作成の方法の妥当性と課題を見だし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応する力を養う。</li> <li>企業会計に関する法規と基準を適切に適用する力の向上を目指して自ら学び、適正な取引の記録と財務諸表の作成に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</li> </ul>															
学習方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習の要点を理解し、演習に取り組み基礎的・基本的な知識と技術を身に付ける。</li> <li>企業の会計処理について、座学やグループ学習による言語活動を取り入れ、理解の定着を図る。</li> </ul>															
<table border="1"> <tr> <th colspan="2">評価の観点</th> <th>評価の趣旨</th> </tr> <tr> <td>a</td> <td>知識及び技能</td> <td>企業会計の視点から取引を記録・計算・整理するなど技術を学び、企業分析に対する基礎的な知識を身に付ける。</td> </tr> <tr> <td>b</td> <td>思考力・判断力・表現力</td> <td>記録の技術である仕訳や帳簿整理から具体的な企業の取引を分析し、企業理解の基礎的な考え方を身に付ける。</td> </tr> <tr> <td>c</td> <td>主体的に学習に取り組む態度</td> <td>経済社会の主体となる企業の活動に対し興味・関心をもち、企業活動を理解することで経済社会に対する学びの姿勢を身に付ける。</td> </tr> <tr> <td colspan="3">定期考査については、上記 a, b の観点それぞれについて、学習内容に応じて適切に配分しています。</td> </tr> </table>		評価の観点		評価の趣旨	a	知識及び技能	企業会計の視点から取引を記録・計算・整理するなど技術を学び、企業分析に対する基礎的な知識を身に付ける。	b	思考力・判断力・表現力	記録の技術である仕訳や帳簿整理から具体的な企業の取引を分析し、企業理解の基礎的な考え方を身に付ける。	c	主体的に学習に取り組む態度	経済社会の主体となる企業の活動に対し興味・関心をもち、企業活動を理解することで経済社会に対する学びの姿勢を身に付ける。	定期考査については、上記 a, b の観点それぞれについて、学習内容に応じて適切に配分しています。		
評価の観点		評価の趣旨														
a	知識及び技能	企業会計の視点から取引を記録・計算・整理するなど技術を学び、企業分析に対する基礎的な知識を身に付ける。														
b	思考力・判断力・表現力	記録の技術である仕訳や帳簿整理から具体的な企業の取引を分析し、企業理解の基礎的な考え方を身に付ける。														
c	主体的に学習に取り組む態度	経済社会の主体となる企業の活動に対し興味・関心をもち、企業活動を理解することで経済社会に対する学びの姿勢を身に付ける。														
定期考査については、上記 a, b の観点それぞれについて、学習内容に応じて適切に配分しています。																

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	第5編 取引の記帳(その2)	全商3級の範囲の振り返り 第21章 手形の取引 第22章 その他の債権・債務の取引(その1) 第23章 有価証券の取引 全商簿記実務検定演習	○			<ul style="list-style-type: none"> <li>手形の取引に関する基本的な内容とその記帳法を理解して、基礎的な技術を身に付ける。</li> <li>手形の裏書譲渡・割引・書き換え・不渡りの記帳法を理解して、基礎的な技術を身に付ける。</li> <li>受取手形・支払手形以外の手形債権・債務に関する取引の基本的な内容と記帳法を理解して、基礎的な技術を身に付ける。</li> <li>受取商品券の取引に関する基本的な内容とその記帳法を理解して、基礎的な技術を身に付ける。</li> <li>有価証券の取引に関する基本的な内容とその記帳法を理解して、基礎的な技術を身に付ける。</li> </ul>	①定期考査・小テスト ②課題・提出物 ③授業態度
				○		<ul style="list-style-type: none"> <li>手形に関する記帳に自らの思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、表現する能力を身に付ける。</li> <li>受取手形・支払手形以外の手形債権・債務に関する取引について自らの思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、表現する能力を身に付ける。</li> <li>有価証券に関する記帳に自らの思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、表現する能力を身に付ける。</li> </ul>	
					○	<ul style="list-style-type: none"> <li>手形の取引に関心を高め、その記帳処理の学習を積極的に進める。</li> <li>なぜ商業手形と金融手形は勘定科目を区別しなければならないのかに関心をもち、自ら調べようとする態度を示す。</li> <li>有価証券に関心を高め、その記帳処理の学習を積極的に進める。</li> </ul>	
前期末	第5編 取引の記帳(その2)	第24章 個人企業の資本の取引 第25章 個人企業の税金の取引 第26章 本支店会計 全商簿記実務検定演習	○			<ul style="list-style-type: none"> <li>個人企業の資本の取引等に関する基本的な内容とその記帳法を理解して、基礎的な技術を身に付ける。</li> <li>個人企業の税金に関する基本的な内容とその記帳法を理解して、基礎的な技術を身に付ける。</li> <li>本支店間の取引、支店相互間の取引などに関する基本的な内容を理解して、基礎的な技術を身に付ける。</li> <li>本支店の合併貸借対照表と合併損益計算書について基本的な内容を理解し、作成法を身に付ける。</li> </ul>	①定期考査・小テスト ②課題・提出物 ③授業態度
				○		<ul style="list-style-type: none"> <li>個人企業の資本に関する記帳に自らの思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、表現する能力を身に付ける。</li> <li>個人企業の税金に関する記帳に自らの思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、表現する能力を身に付ける。</li> <li>本支店間の取引、支店相互間の取引について、その記録・計算・整理に関する問題の解決を目指して、自らの考えを深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、表現する能力を身に付ける。</li> </ul>	
					○	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人企業の資本の取引に関心を高め、その記帳処理の学習を積極的に進める。</li> <li>個人企業の税金に関心を高め、その記帳処理の学習を積極的に進める。</li> <li>本支店の貸借対照表と損益計算書の合併の手続きとその作成法に関心をもち、進んで取り組み、作成した貸借対照表と損益計算書からビジネスの諸活動を理解する。</li> </ul>	
後期中間	第6編 決算(その2)	第28章 決算整理(その2) 第29章 会計ソフトウェアの活用 第20章 株式会社の取引と財務諸表 全商簿記実務検定演習	○			<ul style="list-style-type: none"> <li>費用・収益の繰り延べと見越し、切手・はがきなどの未使用分の処理、有価証券の評価、間接法による減価償却の記帳などに関する基礎的・基本的な技術を身に付ける。</li> <li>決算時に現金過不足・当座借越がある場合の記帳に関する基礎的・基本的な技術を身に付ける。</li> <li>取引の記帳に会計ソフトウェアを活用することによる利点を理解する。</li> <li>株式会社の設立と株式の発行について、基本的な内容を理解する。</li> <li>株式会社の純利益の計上・剰余金の配当と処分・税金の会計処理について、基本的な内容と記帳法を理解する。</li> </ul>	①定期考査・小テスト ②課題・提出物 ③授業態度
				○		<ul style="list-style-type: none"> <li>費用・収益の繰り延べ・見越しなどを含んだ財務諸表について自らの思考を深め、適切に作成する。</li> <li>会計ソフトウェアの活用方法について思考し、記帳の合理化を達成する方法を考える。</li> <li>株式会社の財務諸表の作成について、自らの思考を深め、適切に作成する。</li> </ul>	
					○	<ul style="list-style-type: none"> <li>費用・収益の繰り延べ・見越しなどを決算整理として行う理由に関心をもち、自ら進んで調べる態度を示す。</li> <li>会計ソフトウェアの活用に関心を高め、その運用方法について積極的に学ぶ。</li> <li>個人企業と株式会社の会計処理や財務諸表の違いに関心をもち、自ら進んで調べる態度を示す。</li> </ul>	
後期末	財務会計の基礎	企業と会計 企業会計制度と会計法規 総合演習	○			<ul style="list-style-type: none"> <li>会計の意味や機能について正しく理解する。</li> <li>会計法規の種類や目的について、どのようなものか正しく理解する。</li> </ul>	①定期考査・小テスト ②課題・提出物 ③授業態度
				○		<ul style="list-style-type: none"> <li>会計基準がなぜ必要か説明できる。</li> <li>会計法規の役割を説明できる。</li> </ul>	
					○	<ul style="list-style-type: none"> <li>財務会計の役割について、自ら進んで実際の事例を調べる。</li> <li>企業会計原則の適用例について、自ら進んで実際の事例から調べる。</li> </ul>	

## 評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期中間	知識及び技能	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
前期末	知識及び技能	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期中間	知識及び技能	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期末	知識及び技能	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30

# 令和8年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	商業	学年	3	教科書	最新情報処理 (実教出版)
科目	情報処理	クラス	αコース	副教材	各種問題集
		単位数	3	担当者	石倉 節子

学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報処理に関わる基本的な知識と技術を習得し活用することができる。</li> <li>・ビジネスにおける課題を発見し、科学的な根拠などに基づいて解決することができる。</li> <li>・情報処理の重要性を理解し、情報を活用する態度を身に付け、主体的に能動的に取り組むことができる。</li> </ul>				
学習方法	コンピュータのハードウェアとソフトウェアを理解し、実務で必要とされるソフトウェアを活用して、情報を収集し、処理し、伝達する力、また、コンピュータを新しい業務に積極的に活用しようとする力などを習得できるようにする。問題演習等を通じて基礎的な知識を身に付ける。				
学習評価	評価の観点	評価の趣旨			
	a 知識及び技能	企業において情報を扱うことについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。			
	b 思考力・判断力・表現力	企業において情報を扱うことに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。			
	c 主体的に学習に取り組む態度	企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業において情報を適切に扱うことに主体的かつ協動的に取り組もうとしている。			
定期考査については、上記 a, b の観点それぞれについて、学習内容に応じて適切に配分しています。					

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	1章 企業活動と情報処理	1節 情報処理の重要性 2節 情報モラルと法規 3節 コミュニケーションと情報デザイン	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報の意義と役割を理解する。</li> <li>・コンピュータを利用した情報の処理や活用の重要性を理解する。</li> <li>・情報処理に関わる職業や仕事を学ぶことにより、ICT人材に求められる役割と身につけるべき能力の概要を理解する。</li> <li>・情報モラルの基本的な考え方や態度、情報を取り扱う上で守るべき法規の必要性と、その概要を理解する。</li> </ul>	①定期考査・小テスト ②課題・提出物 ③授業態度
	2章 コンピュータシステムと情報通信ネットワーク	1節 コンピュータシステムの概要 2節 情報通信ネットワークのしくみと構成 3節 インターネットの活用 4節 情報セキュリティの確保	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業における適切な情報処理について理解するとともに、関連する技術を身に付ける。</li> <li>・コンピュータの基本的な機能と構成を理解し、ハードとソフトの種類と機能について理解するとともに、それを活用する基本的な技術を身に付ける。</li> </ul>	
前期末	3章 情報の集計と分析	1節 ビジネスと統計 2節 関数を利用した表の作成 3節 グラフの作成	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報通信ネットワークを利用したビジネス情報の検索と活用方法、電子メールの利用方法について理解する。</li> <li>・個人が身につけるべきセキュリティ管理の方法について理解する。</li> </ul>	①定期考査・小テスト ②課題・提出物 ③授業態度
			○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報の重要性を理解し、情報を分析して、傾向を把握する能力を身に付ける。</li> </ul>	
			○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な操作や計算式及び関数について理解し、目的に応じて適切な表の作成する技術を身に付ける。</li> <li>・グラフの種類や構成要素、特色を理解し、表計算ソフトウェアを利用して目的に合ったグラフ作成方法について理解する。</li> </ul>	

後期中間	3章 情報の集計と分析	4節 情報の整列・検索・抽出 5節 問題の発見と解決の方法	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表計算ソフトを利用して、整列や検索、抽出の技法について理解する。</li> <li>・問題の発見と解決についての考察、PPM分析などを活用した情報の整理及びPDCAサイクルによる企業活動の改善について理解する。</li> </ul>	①定期考査・小テスト ②課題・提出物 ③授業態度
	4章 ビジネス文書の作成	1節 ビジネス文書と表現 2節 基本文書の作成	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文書情報がコミュニケーションの重要な手段として、ビジネスの諸活動の中で果たしている役割や種類について理解する。</li> </ul>	
			○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワープロの利用に関する知識と技術を習得させ、文書の構成、構成要素の配置、文書作成の要領について理解する。</li> </ul>	
後期末	4章 ビジネス文書の作成	2節 基本文書の作成 3節 応用文書の作成	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジネス活動におけるプレゼンテーションの意義を理解するとともに、基礎的な技法を身に付ける。</li> </ul>	①定期考査・小テスト ②課題・提出物 ③授業態度
			○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的や形態によるプレゼンテーション方法の違いについて理解するとともにプレゼンテーションソフトウェアを活用した実習を通して、資料の作成などの発表準備から発表までの一連の活動について理解を深める。</li> </ul>	
	5章 プレゼンテーション	1節 プレゼンテーションの技法 2節 ビジネスにおけるプレゼンテーション 総合演習	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種ソフトウェアを適切に活用し、様々な報告書や文書を作成、または発表する。</li> </ul>	

## 評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期中間	知識及び技能	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
前期末	知識及び技能	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期中間	知識及び技能	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期末	知識及び技能	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30

# 令和8年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	家庭	学年	3	教科書	保育基礎(教育図書)
科目	保育基礎	クラス	αコース	副教材	保育基礎準拠ノート
		単位数	2	担当者	釜石知佳

学習目標	1 保育の意義や方法、発達や生活の特徴、福祉や文化について基本的な知識と関連する技術を習得する。 2 子どもを取り巻く課題を発見し、合理的かつ創造的に解決する力を養う。 3 子どもの健やかな発達を目指して学び、グループ学習や実習を通して、自分以外の意見を受け入れ、主体的に協働して取り組む。	
学習方法	1 子どもを取り巻く課題を考えながら、保育の意義や方法、発達や生活の特徴、福祉や文化について体系的に展開する。 2 主体的に創造力を持って取り組み、実践的・体験的な学びができるよう、グループ学習や実習を充実させる。 3 課題意識をもち、知識だけでなく、実践した内容について考えをまとめて発表・表現する場を設ける。	
学習評価	評価の観点	当該科目の評価の趣旨
	a 知識・技能	子どもの発達・生活の特徴、保育、福祉や文化について知識を体系的に身に付けている。発達の特長や発達過程に対応した技術を身に付けている。
	b 思考・判断・表現	子どもを取り巻く課題を見つけ、創造的に解決するために思考を深め、工夫・実践し、内容や考えを表現する力を身に付けている。
	c 主体的に学習に取り組む態度	子どもの発達や保育にかかわる職業について関心をもち、地域の子育て環境を総合的にとらえ、意欲的な態度で取り組んでいる。
定期考査については、上記a, b の観点それぞれについて学習内容に応じて適切に配分しています。		

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	1章 子どもの保育	保育の意義 保育の環境	○	○	○	a 子供の人格形成における月齢・年齢に応じた保育の重要性と、保護者・保育者の役割を理解している。保育所・幼稚園・認定こども園における保育・教育の特徴を理解している。 b 保育の特徴、保育者に求める姿勢、家庭が集団保育を求めることを子育て環境の変化等と関連し考察できる。 c 自分自身が親や保育者になることを、自分の人生観と結び付けて考え、各種保育施設の特徴を調べようとする。	授業プリント 授業観察 検定への取組(実技) 振り返りシート 作品
	保育技術検定 造形表現3級 対策・本番	実技試験対策(折り紙) 造形表現技術3級	○	○	○	a 折図を読み取り、正しく折り紙を完成させる技術を身に付けている。 b 実技試験対策で出た課題を言語化し、意欲的にまとめることができる。 c 検定に対して関心をもって意欲的に取り組んでいる。	
	保育技術検定 造形表現2級 対策・本番	実技試験対策(折り紙・描画) 造形表現技術2級	○	○	○	a 折図を読み取り、正しく折り紙を完成させる技術を身に付けている。テーマに沿った描画・折り紙を完成させることができる。 b 実技試験対策で出た課題を言語化し、意欲的にまとめることができる。 c 検定に対して関心をもって意欲的に取り組んでいる。	
前期末	第2章 子どもの発達	子どもの発達 乳幼児の発達と発達	○	○	○	a 子どもの身体的発達の共通性・個別性、生理的特徴、情緒や社会性の心的発達について、環境や保育者の関わり的重要性を理解している。 b 地域の保育施設の子どものふれあいを通して、子どもの発達や保育者のかかわりの特徴をまとめ発表ができる。 c 子どもの気持ちに寄り添った関わり方など、主体的に捉えようとしている。	授業プリント 授業観察 検定への取組(実技) 振り返りシート 作品

後期中間	第3章 子どもの生活	子どもの健康と生活 子どもの食事 子どもの衣服と寝具	○	○	○	a 子どもの養護の必要性について理解し、その発達段階に応じた適切な養護や生活援助のための技術を身に付けている。 子どもの日常生活における世話の仕方とその役割について理解している。乳幼児期の食生活の特徴や、発達に必要なエネルギー・栄養素などについて理解している。乳幼児の発達や生活の特徴から、適切な衣服・寝具の状態について理解する。 b 生活習慣を題材にした絵本を選ぶ活動などを通じ、生活習慣の習得を促すための、保育者としての具体的なかかわり方などを考察し、工夫することができる。 現代の子どもの食生活の変化について、健康や生活習慣に関する課題を見つけ、自分の考えをまとめたり、発表したりすることができる。 c 保育施設で行われている食育活動などに関心をもち、地域での子どもの食生活にかかわる取り組みについて主体的に情報を収集しようとしている。 子どもの着替えやおむつ替えなどをする際にとのようにかかわるかなど、自分が保育者や親になったときを想像し、自分ごととして捉えようとしている。	授業プリント 授業観察 振り返りシート 作品 考査
	第3章 子どもの生活	子どもの健康と安全	○	○	○	a 子どもの健康が免疫力や衛生環境など多様な要因から影響を受けやすく、健康を守る上で保育者の役割が重要であることを理解している。 子どもの病気の特徴を知り、適切な看護の方法を理解している。 b 子どもの目線を体験する活動などを通して、家庭や保育施設における安全性についての課題を見出し、子どもを危険から守るための具体的な方法を考察することができる。 c 子どもの病気について主体的に情報を収集しようとしている。	
	第4章 子どもの福祉	児童福祉の理念と法規・制度	○	○	○	a 児童福祉の理念と特徴、法律や制度、福祉にかかわる施設の役割について理解している。 b 児童虐待や貧困など、具体的な問題を通して子どもの福祉の必要性を考察し、発表できる。 c 保育施設や行政、地域が連携した子育て支援について関心をもち、自ら情報収集と新たな支援策を考えようとしている。	
後期末	第5章 子どもの文化	子どもと遊び 子どもの表現活動	○	○	○	a 子どもの健やかな発達遊びによってもたらされることを理解している。 おもちゃ作りなどの活動を通して、子どもの遊びの特徴や、保育者としての適切なかかわり方を捉えている。 b おもちゃづくりなどの活動を通して、子どもが楽しく安全に遊ぶことができるように工夫することができる。 現代の子どもの遊びを取り巻く現状を理解し、課題について考察することができる。 c 自身が保育者になることを想像しながら、子どもたちが楽しめるように積極的に取り組もうとしている。 保育施設で行われている遊びに関心をもち、自分で情報を収集しようとしている。	授業プリント 授業観察 振り返りシート 作品 考査

## 評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期中間	知識・技能	50	0	50
	思考・判断・表現	30	0	30
	主体的に学習に取り組む態度	20	0	20
前期末	知識・技能	50	0	50
	思考・判断・表現	30	0	30
	主体的に学習に取り組む態度	20	0	20
後期中間	知識・技能	40	20	20
	思考・判断・表現	30	15	15
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期末	知識・技能	40	20	20
	思考・判断・表現	30	15	15
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30

# 令和8年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	家庭	学年	3	教科書	教育図書 フードデザイン
科目	フードデザイン	クラス	αコース	副教材	教育図書 フードデザイン ワークノート
		単位数	3	担当者	釜石知佳

学習目標	<p>1 食に関わる基本的な知識と技術を習得することができる。</p> <p>2 自分の現在や将来の生活について、社会生活や家庭生活と結び付けて考えることができる。</p> <p>3 グループ学習・実習を通して、自分以外の意見を受け入れ、協調性を身に付けながら、理解を深めることができる。</p>	
学習方法	<p>1 食生活を取り巻く問題を考えながら、それぞれのライフステージを想定し学習することで、健康で持続可能な社会と生活を目指す。</p> <p>2 グループ学習や実習を充実させ、実践的・体験的な学習を行う。</p> <p>3 プリントを用いて、知識理解だけでなく、考えをまとめ、発表する場を増やし、表現する学習も行う。</p>	
学習評価	評価の観点	当該科目の評価の趣旨
	a 知識・技能	食事の意義と役割について理解するとともに、豊かな食事を構成する要素として栄養、食品、料理様式と献立、調理、テーブルマナーなどに関する知識を習得することができる。調理、テーブルコーディネートなどに関する技術を習得することができる。
	b 思考・判断・表現	自分の食生活や食環境が大きく変化している現状に課題を見つけ思考を深める。また、考えをまとめ発表ができる。
	c 主体的に学習に取り組む態度	食の役割に関心をもち、作るから食べるまでを総合的に捉えて計画する意欲と実践的な態度を身に付けようとする。
定期考査については、上記a, b の観点それぞれについて学習内容に応じて適切に配分しています。		

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	第2章 栄養素と食品	嗜好食品 調味料・香辛料 健康食品 日本人の食事摂取基準 ライフステージと栄養	○	○	○	<p>a 栄養素の種類と役割について、科学的に理解している。食品の特徴、調理上の性質、調理の特徴や加工などについて理解できている。</p> <p>b からだの中で、それぞれの栄養素がどのような働きをしているのかについてまとめたり、発表したりすることができる。</p> <p>c 食品の特徴や栄養素の種類について関心をもち、発展しようとしている。</p>	授業プリント 調理実験・実習 授業観察 検定への取組(筆記・実技) 小テスト 調理実習レポート 振り返りシート 考査
	食物調理2級検定対策	筆記試験対策 実技試験対策(調理実習)	○	○	○	<p>a 基本的な調理技術と課題をこなせる技術を身に付けている。筆記・実技試験に向けた知識技術を理解している。</p> <p>b 筆記・実技試験対策で出た課題を言語化し、意欲的にまとめることができる。</p> <p>c 検定に対して関心をもって意欲的に取り組んでいる。</p>	
前期末	食物調理2級検定対策・本番	筆記試験対策 実技試験対策(調理実習) 食物調理技術検定2級	○	○	○	<p>a 基本的な調理技術と課題をこなせる技術を身に付けている。筆記・実技試験に向けた知識や技術を理解している。</p> <p>b 筆記・実技試験対策で出た課題を言語化し、意欲的にまとめることができる。</p> <p>c 検定に対して関心を持って意欲的に取り組んでいる。</p>	授業プリント 調理実験・実習 授業観察 検定への取組(筆記・実技) 調理実習レポート 振り返りシート
	第4章 調理してみよう	なぜ調理するのか 調理操作と調理器具	○	○	○	<p>a 安全性、栄養性、おいしさなどの面から、調理の目的を理解している。食べ物の味が影響を受けている要素を理解している。非加熱調理と加熱操作の種類とそれぞれの特徴を理解している。</p> <p>b 食べ物のおいしさに関わる要因について考察している。調理操作が料理の出来上がりを与える影響を、具体的に考え、工夫している。</p> <p>c 実際にさまざまな調理操作を試して、取り組もうとしている。調理器具の特徴としくみを理解し、具体的に使用してみようとしている。</p>	

後期中間	第4章 調理してみよう	なぜ調理するのか 調理操作と調理器具	○	○	○	<p>a 安全性、栄養性、おいしさなどの面から、調理の目的を理解している。食べ物の味が影響を受けている要素を理解している。非加熱調理と加熱操作の種類とそれぞれの特徴を理解している。</p> <p>b 食べ物のおいしさに関わる要因について考察している。調理操作が料理の出来上がりを与える影響を、具体的に考え、工夫している。</p> <p>c 実際にさまざまな調理操作を試して、取り組もうとしている。調理器具の特徴としくみを理解し、具体的に使用してみようとしている。</p>	授業プリント 調理実験・実習 授業観察 小テスト 調理実習レポート 振り返りシート 考査
	調理実験・実習 調理操作に応じた 献立を考える	調理実験 調理実習 献立作成	○	○	○	<p>a 衛生面と安全に配慮した食品の取り扱いと、調理操作を身に付けている。</p> <p>b 調理操作に適した献立を考え、適切に食材を選択することができる。</p> <p>c 調理操作に応じた献立作成、食材の選択と調理に意欲、関心をもって取り組もうとしている。調理レポートの作成に意欲的に取り組もうとしている。</p>	
後期末	第5章 各国料理とテーブルコーディネート	料理の様式 各種料理のテーブルコーディネート	○	○	○	<p>a 各様式別料理の特徴や献立構成について理解している。各様式別料理の作法に関するマナーやサービスを身に付けている。</p> <p>b 食べる人に配慮した献立やサービスの方法について判断することができる。</p> <p>c 各様式別料理の献立や作法について興味をもち、具体的に取り組もうとしている。</p>	授業プリント 調理実験・実習 授業観察 小テスト 調理実習レポート 振り返りシート 考査
	第6章 食育と食育推進活動	食文化を見つめる 郷土料理 行事食	○	○	○	<p>a 食は生活と密着したものであり、地域やライフスタイルに合わせて多様な文化を作り上げてきたことを理解している。郷土料理など、日本の食文化について情報を収集・整理できる。</p> <p>b 食と生活の関わりを、郷土料理や季節などを意識しながら考察している。和食の特徴や食文化の伝承について考え、課題を見出している。</p> <p>c 郷土料理や行事食に関心をもち、実生活に活かそうとしている。</p>	
	調理実験・実習	調理実験 調理実習	○	○	○	<p>a 衛生面と安全に配慮した食品の取り扱いと、調理操作を身に付けている。</p> <p>b 調理実習後に科学的な視点をもち、レポートをまとめることができる。</p> <p>c 調理実習に意欲、関心をもって取り組もうとしている。調理レポートの作成に意欲的に取り組もうとしている。</p>	

## 評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期中間	知識・技能	35	20	15
	思考・判断・表現	35	15	20
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
前期末	知識・技能	50	0	50
	思考・判断・表現	30	0	30
	主体的に学習に取り組む態度	20	0	20
後期中間	知識・技能	35	20	15
	思考・判断・表現	35	15	20
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期末	知識・技能	35	20	15
	思考・判断・表現	35	15	20
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30